

第149回日商簿記2級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	普通預金	当座預金	電子記録債権
売買目的有価証券	建物	備品	リース資産
満期保有目的債券	その他有価証券	別段預金	営業外受取手形
営業外支払手形	電子記録債務	修繕引当金	リース債務
買掛金	仮受金	預り金	資本金
株式申込証拠金	資本準備金	その他資本剰余金	修繕積立金
繰越利益剰余金	有価証券利息	修繕費	修繕引当金繰入
支払リース料	支払利息	電子記録債権売却損	手形売却損

- 池井戸商店に対する買掛金 ¥ 300,000 の支払いを電子債権記録機関で行うため、取引銀行を通して電子記録債権の譲渡記録を行うとともに、電子記録債権のうち ¥ 200,000 を取引銀行で割引き、割引料 ¥ 3,000 が差し引かれた手取金が当座預金口座に振り込まれた。
- 平成30年5月28日に、売買目的の有価証券として、他社が発行する額面総額 ¥ 2,000,000 の社債(利率:年0.73%、利払日:9月末)を額面 ¥ 100につき ¥ 98.50 で購入し、代金は直近の利払日の翌日から売買日までの期間にかかる端数利息とともに現金で支払った。なお、端数利息については、1年を365日として日割り計算すること。
- 建物の修繕工事を行い、代金 ¥ 1,000,000 は普通預金口座から支払った。なお、工事代金の10%は改良のための支出と判断された。また、この修繕工事に備えて、前期に ¥ 1,000,000 の引当金を設定している。
- 新たに1,000株(1株あたりの払込金額は ¥ 30,000)を発行して増資を行うことになり、払い込まれた1,100株分の申込証拠金を別段預金に預け入れた。なお、当社では申込証拠金を資本金に充当するさいには、会社法が規定する最低額を組み入れることとしている。
- 平成30年4月1日、リース会社から業務用プリンタをリースする契約を締結し、同日からリース取引を開始した。リース期間は5年、リース料は年間 ¥ 50,000 (毎年3月末払い)、リースする業務用プリンタの見積現金購入価額は ¥ 220,000 である。なお、当社の決算日は3月31日である。また、このリース取引はファイナンス・リース取引であり、利子込み法で会計処理を行う。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	買掛金	300,000	電子記録債権	500,000
	当座預金	197,000		
	電子記録債権売却損	3,000		
2	売買目的有価証券	1,970,000	現金	1,979,600
	有価証券利息	9,600		
3	建物	100,000	普通預金	1,000,000
	修繕引当金	900,000		
4	別段預金	33,000,000	株式申込証拠金	33,000,000
5	リース資産	250,000	リース債務	250,000